

SHIMAMOTO
鹿本

編集・発行 ● 青少年育成 / 鹿本地区委員会 / 江戸川区鹿骨 1-54-2 (江戸川区鹿骨事務所内) / ☎ (3678) 6113

新 町会長・学校長紹介



本一色自治会

会長 三田 保雄

趣味

ゴルフ、散歩

好きな言葉

継続は力なり

心掛ける事

思いやりと感謝の気持ちを大切に
楽しくボランティア活動で
きる環境をつくる。

松本小学校

校長 吉田 佳代

趣味

フルート・街歩き

好きな言葉

「何とかなる」
恩師からいただいた座右の銘
です。

教育目標

「人として」 ○やさしい子
◎考える子 ○やりぬく子
○健康な子

専攻科目

国語



鹿骨三丁目町会

会長 矢野 英之助

趣味

水素自動車ドライブ
SDGsの行動してました。

好きな言葉

努力

心掛ける事

町会運営はボランティアです。
魅力、楽しく、責任を持って。

青少年育成地区委員会

合同研修会

7/14 木

7月14日(木)江戸川区総合文化センターにおいて、東京都の地区委員会なんでもアドバイザー派遣事業を利用した合同研修会が行われました。

講師は自治会などの活動支援アドバイス等を行っている合同会社橘代表の橘たか氏です。テーマは「ともに生きる」を実現するために～多様性社会の考え方と実現に向けて～

多様性社会とは、さまざまに違いがあることで、そのなかで人々が社会や世界を共有して、ともに



生きることを大切にする。民族性・社会的身分・言語など人々の間にあるさまざまな違いが問題となる。全ての人がそれぞれ異なる人々の互いを認め合い、ともに生きていく多文化共生に取り組むことが重要になってくる。最近子供たちと外国人が交流する活動が増えてきている。

講演会の途中で何度か、各テーマについて両隣の人達と意見交換があり、有意義であった。相手の立場を考え自分を生かし、それぞれの持分を活かして、皆さんの力を活かす。

私たち、ひとりひとりが「自分ごと」として考えていくところに、ヒントがあるようでした。

江戸川区ホームページにも掲載をはじめました。
右のQRコードからページに移ります。

環境をよくする絵画コンクール作品展示11月13日(日)～12月4日(日) 実施予定

子どもを中心とした健全育成事業たき火の科学12月17日(土) 実施予定

校長先生に 聞きました

鹿本小学校「コロナ禍での学校生活」

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対応3年目となりました。学校では、当たり前が当たり前ではなくなった新しい生活に慣れてきた面と引き続き試行錯誤の面があります。

大きく変わったのは、一人一台タブレット端末の導入です。国のGIGAスクール構想が感染症拡大により前倒しとなり、全ての子どもに配置されました。子どもたちはICT機器に慣れ親しむのは速いので、調べ学習、プレゼンテーション、動画作成等、授業でも特別活動でも活用しています。学校を休まなければならない子どもは、タブレット端末でオンライン授業を受けています。



タブレット

一方で、人が密になる空間を避けることから、来校者入れ替え制の学校公開や運動会、黙食での給食、従来の登校班を変更した個別登校等は、継続しています。まだまだ感染症対策が必要ではありますが、創意工夫しながらできることに取り組んでいます。

感染症に配慮しつつ6年生が1年生のお世話をする姿等見ると、つながりの大切さを再確認させられます。普遍のものを大切にしながら、新しい生活の中で子どもたちの「わくわく」が溢れる学校を目指しています。



始業式

本一色小学校「コロナ禍での学校生活」

今年度も新型コロナ感染症終息の見通しは全く見えません。この状況下での本校のスタンスは「人と関わる学びを止めないために、実施可能な方法を考える」ということです。

学校は、本来密接な人間的なふれあいを重視する場所です。問題を協力して解決することを通して、自分を大切に、みんなで生きていく知恵を身に付ける場所なのです。密を避けるということは、学校の役割を一部凍結することを意味するので残念でなりません。

そうは言っても、「行動制限なし」というわけにはいきません。休校になると一人学習になります。一人で学ぶより、みんなで学んだ方が深い学びができますし、意欲も断然違います。この「人と関わる学び」を止めないために実現可能な活動方法を探っています。



水泳学習は、子供の間隔を十分にとって黙って行っています。学習中の交流は、子供の位置や人数を考えて行います。マスクを外す給食時は声を出していません。

行事や集会などは、リモートで行うことが多くあります。教育活動すべてについて、できる方法をいつも探しています。今後も制限はあっても「楽しい」と思える授業や行事を考えていきます。



上一色南小学校「コロナ禍での学校生活」

校長先生に
聞きました

「なかよしタイム」

今年度の大きな目標は「子どもたちの学びを止めない」ということです。この2年間
は残念ながら多くの活動を中止、もしくは縮小せざるを得ませんでした。今年度はこれま
で学んだことを十分に生かし、感染症対策をしっかりと図りながら通常の教育活動を行っているところ
です。

今年度は特に、この2年間十分に実施できなかった縦割り班活動「なかよしタイム」に重点的に取
り組んでいます。

全校児童を15の班に分け、一つの班には全学年の
児童が入ります。班ごとに高学年がリーダーとなり遊び
の計画をたて、班の児童全員で遊ぶ活動です。

低学年は、リーダーとして頑張る高学年の姿を見て
憧れるとともに、自分も大きくなったら立派な高学年に
なりたいという目標をもちます。高学年は下級生への
思いやりの気持ちはもちろん、責任感や自立心など社
会人としての土台となる力が育ってきます。

「なかよしタイム」は子どもたちの心の成長には欠かさ
すことのできない大切な活動なのです。



鹿骨中学校「コロナ禍での学校生活」

鹿骨中学校は「多様な友達と共に磨き合い、成長できる場所」です。

○授業を大切にしています

本校では、すべての授業で「鹿骨授業スタンダード」(SJS)に取り組んでいます。「本時の目標」
と「学習の流れ」を明示して、生徒が見通しをもって、授業に取り組めるようにしています。また、授業
の「振り返り」を必ず行い、次の学びにつなげています。授業の構造を統一することで生徒の「わか
る」を実現しています。

○体験を大切にしています

生徒は、主体的に学校行事や部活動に取り組んでいます。運動会は、生徒実行委員が計画し、自分たちの力で練
習していきます。先生はいつもそばでサポートし、生徒が主
役の運動会を実現しています。また、花いっぱい運動など
のボランティア活動や部活動にも生徒は自らの意思と責
任で取り組んでいます。

○学校だからできることを大切にします

コロナ禍で教育活動の継続が難しい中ですが、「どうすればできるか」を先生と生徒が一緒に考え
て、実施方法を工夫しています。これからも生徒の成長を支えていきます。



鹿骨一丁目子ども会



鹿骨二丁目子ども会

夏休みの
ラジオ体操

子ども会では、夏休み期間中にラジオ体操をおこないました。
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、間隔を広げるなど
工夫し、早朝から元気に参加していました！



西篠崎子ども会



鹿骨三丁目子ども会

鹿骨五丁目子ども会
「いも掘」

鹿骨五丁目子ども会では、6月26日（日）にジャガイモ掘り会を日頃よりお世話になっています小宮農園さんにておこないました。今年の6月は猛暑続きで当日も暑く熱中症が心配されましたが、会場に冷たいお茶を沢山用意して準備万端、大勢の子ども達が集まり楽しい会になりました。掘ったジャガイモは袋に詰めて一人一人に渡しました。サポートの皆様の協力を得て無事終わる事ができました。子ども達の一所懸命ジャガイモを掘る姿がとても楽しそうで良かったです。皆さんに又お会い出来る日を楽しみにしてます。皆さん元気でねー！

